



Schools in Japan and the UK Ravinder Chana

British schools and Japanese schools have many interesting similarities and differences. In the UK there are no Junior High Schools instead we go from Nursery to Primary School, Secondary School (High School), College/Sixth Form and then University.

There are no graduation ceremonies in the UK until University, instead we have a school Disco at the end of Primary school and Prom at the end of Secondary school which are just parties with music and a DJ.

In the UK we have 'detentions' where if a student misbehaves, is late to school or hasn't completed their homework on time they have to stay in school at the end of the day for additional time where they must study in silence, these can range from 15 minutes up to an hour. Also, if your tie isn't the correct length or your shirt is untucked you can receive a 'strike', 3 of which lead to a detention.

Similar to Harry Potter, British secondary schools also have 'Houses' like Gryffindor and Slytherin represented by tie colours e.g. yellow, red, blue. Students are separated into Houses based on their classes and compete regularly to accumulate 'House Points' ultimately leading up to Sports Day where all the Houses try to become champions for that year.

Additionally, we also have positions such as Headboy, Headgirl and Prefects where selected students gain additional responsibilities, they work alongside teachers to enforce rules whilst representing the school, much like the student council in Japan, they wear a small shield-shaped badge to be identified easily.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

プロムという言葉が出ました。プロムナード（舞踏会）の略です。一般的には男の子が女の子を誘って参加。タキシードとドレスできめます。ところが時代はLGBTQ+。現実はかなり変わっていると思われ、女の子が同性の子を誘って、学校がそれを禁止して、という映画が話題になりました。

イギリスと日本の学校 ラビンダー・チャナ (訳:宮地晶子)

英国と日本の学校には興味深い類似点や相違点が多くあります。英国には、中学校というものがなく、保育園から小学校、中等学校、カレッジ/シックスフォーム、そして大学へと進みます。大学まで卒業式というものはなく、小学校の最後にはスクールディスコが、中等学校の最後には音楽とDJ付きのプロム(※)があります。

英国では、生徒が遅刻した場合や、宿題の締め切りを守らなかった場合、15分から最大1時間居残りをして、黙って勉強するという罰があります。また、ネクタイの長さが違ったり、シャツの裾がはみ出していたりしたら、ワン・ストライク。もちろん3ストライクで居残り決定です。

英国の中等学校には、ハリー・ポッターに出てくるグリフィンドールやスリザリンのようなハウスと呼ばれる縦割りグループがあり、赤・青・黄などネクタイで色分けされます。クラス毎にハウスに振り分けられた生徒たちは、その年のチャンピオンを目指して、最後のスポーツ・デーまで定期的に競いあいます。

また、ヘッドボーイ、ヘッドガール、舎監といった役職もあり、選ばれた生徒はさらに責任を追うことになり、日本の生徒会のように、学校の代表として教師とともに規則を執行します。彼らは小さな盾の形をしたバッジをつけているので、すぐに見分けがつかます。

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第212回

ルート66

タレントがアメリカのルート66をヒッチハイクで横断、というテレビ番組を見ました。息子の転勤先にも近く、興味津々。ルート66は、シカゴとサンタモニカを結ぶ全長3755kmの旧国道。1985年に廃止になったとはいえ、大陸を横断するこの道はアメリカ西部の発展を支えた重要な道です。数々の映画、小説の舞台になり、ナット・キング・コールの歌でも有名です。番組では古き良きアメリカを思わせる気の良い米国人がたくさん出てきました。

でも、ヒッチハイクは甘くない。親指を立ててトラックを止めようとしても、何時間も止まらない。休憩している人に直談判するしかない。私もいろいろな国でヒッチハイクをしましたが（危険なおすすめしません）、とにかく止まってもらうまでが大変。冷たく断られたこともあり、そんなときは全世界から拒否されている気持ちになりました。1日中立っていたときは「朝からいたよね」と泊めてくれた人もいます。ヒッチハイクの場合、まずは「お願いする勇気」が大事。そして、運良く乗せてもらえたら、欠かせないのが「コミュニケーション能力」。タクシーではないので、黙って座っているなんてありえない。とにかく「質問力」で会話を続ける（まあ、ちょっと面白い小ネタも持っているとなおよい。関西人は、小さいときからオカンにまつわる小ネタとアメちゃんをポケットに入れている）。考えてみたら、他人に興味をもって情報を引き出す力、これなくして英語が話せるわけがない。いきなり英語が無理なら、まずは日本語で練習を！